

北海道教育学会

第66回研究発表大会

◆ プログラム ◆

2022年2月18日(金)・19日(土)

オンライン

主催 北海道教育学会

《 講 演 》

2月18日(金) 18:00~19:30

第4次産業革命と教育の未来—ポストコロナ時代のICT教育—

佐藤 学 (東京大学名誉教授)

AI (人工知能) とロボット、IoT (モノとモノを繋ぐインターネット)、ビッグデータに代表される第4次産業革命によって、世界の産業・経済・社会・教育は激変している。新型コロナ・パンデミックは第4次産業革命の進行を加速させ、ICT教育市場は驚異的な膨張をとげて、世界各国の公教育は危機的な状況に突入している。日本においても経産省を中心に ICT教育市場の拡大が推進され、昨年来の GIGA スクールの展開は、これからの学校教育の進路を決定づけるものとなるだろう。この講演では、第4次産業革命と新型コロナ・パンデミックのもとで急変する教育現実と公教育を擁護する改革と実践の方途を探ります。

司 会 姉崎 洋一 (北海道大学名誉教授)

主体的・探究的で協働性を育む ICT 活用教育の新しいあり方と可能性

—実践事例から考える成果と課題

来たる Society5.0 社会を鑑みて、2021 年 4 月から GIGA スクール構想が政策的に推進され小中学校の児童生徒全員がタブレット端末を有することになった。また折しもコロナ危機の中では感染予防の観点から在宅学習活動を進めることも可能となった。ICT 活用教育は、子供の新しい論理的思考、探究的学習活動、距離・空間を超えた遠隔双方向教育など、学習ツールとして新しい機能も有しており、学習スタイルや授業スタイルも大きく変わる可能性がある。これらの ICT を活用しながら、主体的・探究的な学習活動を促進して行くことが重要になる。

一方子どもたちがタブレットに向き合うことで個々に学習活動ができるだけであれば、学習の個別化等を招く課題も指摘されている。このような ICT を活用した教育の現状と課題を踏まえながら、子どもの発達・学習への成果と影響、授業実践の展開、教員の研修、ICT 条件整備の課題などの観点から、ICT 活用教育の可能性と課題克服の在り方を検討することが求められている。

全体シンポジウムでは「主体的・探究的で協働性を育む ICT 活用教育の新しいあり方と可能性—実践事例から考える成果と課題」をテーマにして、この間、ICT 活用教育に積極的に取り組んできた北海道教育大学附属函館中学校・同附属釧路義務教育学校の先進的な実践事例を元にしてその可能性を捉える。また東京学芸大学教員附属竹早小学校からは全国的な実践を踏まえながら ICT 活用教育の可能性を捉える。

これらの先進事例を元にして、これからの ICT 活用教育の新しいあり方と可能性、及び課題克服の方策等を検討する。また ICT 教育の環境・条件が地域ごとに相当に異なる状況にある北海道において、今後どのような形で ICT 教育の展開が可能であるのか、その研究・実践上の課題は何かを明らかにしたい。

報告 1 白川 卓 (北海道教育大学附属函館中学校)

探究的で協働的な学習活動の発展と ICT 活用教育—北海道教育大学附属函館中学校の実践

報告 2 更科 結希 (北海道教育大学附属釧路義務教育学校)

主体的・対話的で深い学びを指向する ICT 活用教育—北海道教育大学附属釧路義務教育学校の実践

報告 3 佐藤 正範 (現東京学芸大学附属竹早小学校、4 月より北海道教育大学)

小学校における子どもたちの主体的な ICT 活用事例と学校環境のありかた

～未来の学校みんなで創ろう PROJECT で見えてきたこと～

コメンテーター 山口 好和 (北海道教育大学函館校)

司 会 前田 賢次 (北海道教育大学)

共 催 日本教育学会北海道地区、北海道教育大学